

吹付けコンクリート指針（案） [のり面編]

正誤表

（第1版・第1刷および第2刷に対応）

ページ	行数（図表番号）	誤	正
		Recommendation for Shotcrete for Tnnels for Slope Stabilization	Recommendation for Shotcreting “Slope Stabilization”
	丸山委員長の「序」		差し替え
	「序」の後		魚本委員長の「序」および宇治主査の「はじめに」を追加
目次	(1)	1.2 のり面吹付けコンクリートの種類	1.2 のり面吹付けコンクリート構造物の種類
目次	(2)	5章 材料および配合設計………3 5.1 総 則………3 5.2 吹付けコンクリートの種類…3	5章 材料および配合設計………33 5.1 総 則………33 5.2 吹付けコンクリートの材料…33
目次	(4)	1章 のり面吹付けコンクリートの現状	1章 のり面吹付けコンクリートの現状
20	下から4行目	拡散係数の試験は、JSCE-F 561-2005「吹付けコンクリート（モルタル）の圧縮強度試験用供試体の作り方（案）」	拡散係数の試験は、JSCE-F 562-2005「吹付けコンクリート（モルタル）の耐久性試験用供試体の作り方（案）」，
21	解説図3.3.1	（出典：北海道土木研究所2004年10月報）	（出典：北海道開発土木研究所月報No. 617）
84～94	土木学会規準の掲載順序	P84 JSCE-F 562-2005 P86 JSCE-F 563-2005-解説 P89 JSCE-F 563-2005 P93 JSCE-F 562-2005-解説	P84 JSCE-F 562-2005 P86 JSCE-F 562-2005-解説 P88 JSCE-F 563-2005 P92 JSCE-F 563-2005-解説
96	5.2 バックグラウンド試験	b) 測定時間 測定点ごとに連続した10分間以上とする。なお、測定開始は吹付けを開始してから10分間以上経過した後を目安とする。	b) 測定時間 測定点ごとに連続した10分間以上とする。
112	下から17行目	…、そこで引抜き強度を「4倍して圧縮強度に変換する」方法については、当該指針（案）の中で参考として示すこととし、…	…、そこで、引抜き強度を「4倍して圧縮強度に変換する」方法については、当該指針（案）の中で「事前に引抜き強度と圧縮強度の関係を求めておくか、もしくは、信頼ある過去のデータから求められた換算方法を用いることが望ましい」として示すこととし、…
150	引用文献	2) 吉田 行ほか：のり面保護用吹付けコンクリートの劣化調査と性能評価、北海道開発土木研究所材料研究室2004年10月	2) 吉田 行ほか：のり面保護用吹付けコンクリートの劣化度調査と性能評価、北海道開発土木研究所月報No617材料研究室2004年10月
203	上から1行目	図5.2.2 コンクリート吹付け工におけるコンクリートとモルタルの使用比率	P202の円グラフの下へ移動
205	5.2.3の1行目	のり面吹付けコンクリート」、「吹付けコンクリート」	コンクリート吹付け工

205	図5.2.7	吹付けコンクリート	コンクリート吹付け工
206	5.2.4の1行目	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
206	図5.2.8aのキャプション	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
206	5.2.5の1行目	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
206	図5.2.9aのキャプション	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
206	図5.2.8の中	N/mm ² , N/mm ³	N/mm ²
206	図5.2.9の中	N/mm ²	N/mm ²
207	5.2.6の2行目	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
207	図5.2.10a	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
207	図5.2.11a	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
208	5.2.7の1行目	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
208	図5.2.12	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
208	図5.2.13	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
209	5.2.8の1および2行目	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
209	図5.2.14	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
209	5.2.9の1行目	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
209		図5.2.14 吹付け枠工における養生状況	図5.2.15 吹付け枠工における養生状況
210	図5.2.16	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
211	図5.2.18a	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工
211	図5.2.19a	吹付けコンクリート工	コンクリート吹付け工

(第1版・第3刷に対応)

ページ	行数 (図表番号)	誤	正
21	下から1行目	相対動弾性係数の試験は、JSCE-F 561-2005「吹付けコンクリート（モルタル）の圧縮強度試験用供試体の作り方（案）」	拡散係数の試験は、JSCE-F 562-2005「吹付けコンクリート（モルタル）の耐久性試験用供試体の作り方（案）」
37	5.3.2 補強材の選定	⑤吹付け用型枠	⑤吹付け枠用型枠

コンクリートライブラリー122

吹付けコンクリート指針(案) [のり面編] 参考資料 3章吹付け枠工の設計例

正誤表

(第1版・第1刷～第3刷に対応)

該当箇所	誤	正
p. 157, 3.1.2, 設計曲げモーメント 設計せん断力	$Md=116kN\cdot m$ $Vd=194kN$	使用時 $Md=96kN\cdot m$ 終局時 $Md=116kN\cdot m$ 使用時 $Vd=161kN$ 終局時 $Vd=194kN$
p. 158, 3.1.5, 釣合い鉄筋比の式中	f'_{yd}	f_{yd}
p. 158, 3.1.5, 釣合鉄筋比の照査式	$0.0099 < 0.0244$ $P < Pb$	$0.0099 < 0.0244 \times 0.75 = 0.0183$ $P < 0.75Pb$
p. 158, 3.1.6, 材料強度の説明	f'_{c}	f'_{ck}
同上	鉄筋の降伏強度の特性値	鉄筋の引張降伏強度の特性値
同上	f_y	f_{yk}
同上	鉄筋の設計降伏強度	鉄筋の設計引張降伏強度
同上	f'_{yd}	f_{yd}
p. 158, 3.1.6, 終局曲げ耐力式中	f_y	f_{yd}
同上	f'_{c}	f'_{cd}
同上の単位	KN・m	kN・m
p. 159, b)安全性に対する 照査の式中	0.711	0.72
p. 159, (2)のa)の式中	103.8kN	104.5kN
p. 159, (2)のb)の式における 単位	KN	kN
p. 159, (2)のc)の式中および 単位	254.1KN	254.8kN
p. 159, (2)のe)の式中	0.916 0.275	0.92 0.28
p. 160, 3.1.7, a)の①鋼材の 中心間隔	($C_s=$)50mm	($C_s=$)75mm
p. 160, 3.1.7, a)の③の式中	0.354mm	0.317mm
同上の鉄筋応力の増加量	($\sigma_{se}=$)157.6N/mm ²	($\sigma_{se}=$)129.7N/mm ²
p. 160, 3.1.7, a)の④の式中	0.885	0.80
p. 160, 3.1.7, b)の①の式 中	82.6N/mm ²	21.9N/mm ²
同上の永久荷重による設計 せん断力	($V_{pd}=$)194N/mm ²	($V_{pd}=$)161N/mm ²
p. 161, コンクリートの負担する 設計せん断耐力の式中	147.2kN	148.6kN
p. 161, ②の式中	0.688	0.19
p. 162, 3.2.5, 釣合い鉄筋比の式中	f'_{yd}	f_{yd}
p. 162, 3.2.5, 釣合鉄筋比の照査式	$0.0051 < 0.0183$ $P < Pb$	$0.0051 < 0.0183 \times 0.75 = 0.0137$ $P < 0.75Pb$

p. 162, 3.2.6, 材料強度の説明	$f'c$	$f'ck$
同上	鉄筋の降伏強度の特性値	鉄筋の引張降伏強度の特性値
同上	f_y	f_{yk}
同上	鉄筋の設計降伏強度	鉄筋の設計引張降伏強度
同上	f'_{yd}	f_{yd}
p. 162, 3.2.6, 終局曲げ耐力式中	f_y	f_{yd}
同上	$f'c$	$f'cd$
同上	252kN・m	254kN・m
p. 162, 3.2.6, 設計曲げ耐力式中	194kN・m	196kN・m
p. 162, b)安全性に対する 照査の式中	0.718	0.72
p. 163, (2)のa)の式中	106.6kN	106.7kN
p. 163, (2)のb)の式中	187.0kN	186.9kN
p. 163, (2)のe)の式中	0.793 0.213	0.80 0.22
p. 164, 3.2.7, a)の①鋼材の 中心間隔	($C_s=$)50mm	($C_s=$)72mm
p. 164, 3.2.7, a)の③の式中	0.386mm	0.342mm
同上の鉄筋応力の増加量	($\sigma_{se}=$)160.9N/mm ²	($\sigma_{se}=$)133.2N/mm ²
p. 164, 3.2.7, a)の④の式中	0.965	0.86
p. 164, 3.2.7, b)の①の式 中	60.7N/mm ²	15.4N/mm ²
同上の永久荷重による設計 せん断力	($V_{pd}=$)194N/mm ²	($V_{pd}=$)161N/mm ²
p. 165, コンクリートの負担す る設計せん断耐力の式中	151.2kN	150.2kN
p. 165, ②の式中	0.506	0.13
p. 166, 3.3.5, σ_s 算出の式 中	($M_d=$)116×10 ⁶ 164.5N/mm ²	($M_d=$)96×10 ⁶ 136.1N/mm ²
p. 166, 3.3.5, σ_c 算出の式 中	($\sigma_s=$)164.5N/mm ² 5.2N/mm ²	($\sigma_s=$)136.1N/mm ² 4.3N/mm ²
p. 166, 3.3.6, τ_c 算出の式 中	($V_d=$)194×10 ³ 0.71	($V_d=$)161×10 ³ 0.59
p. 166, 3.3.6, (2)の V_s 算出 の式中および単位	132.8kN	99.8kN
p. 166, 3.3.6, (2)の S_s の数 値	250mm	300mm
p. 166, 3.3.6, (2)の A_w2 算 出の式中	($V_s=$)132.8×10 ³ ($S_s=$)250 372	($V_s=$)99.8×10 ³ ($S_s=$)300 336
p. 166, 3.3.6, (2)の A_w2 の 数値	372mm ²	336mm ²
p. 166, 3.3.6, (3)の τ_o 算 出の式中	($V_d'=$)194×10 ³ /2 0.76	($V_d'=$)161×10 ³ /2 0.64
p. 167, 表3.2の表中の設計 例1および設計例2の各照査 結果	(設計例1) 0.711≤1.0 0.916≤1.0 0.885≤1.0 0.688≤1.0	(設計例1) 0.72≤1.0 0.92≤1.0 0.80≤1.0 0.19≤1.0